

仕事に誇りを

プロのお掃除のサービスマスター
店を訪ねたとき、店主と息子さん
が一緒に働いていました。お客様
のこと、店の経営など話を聞いた
のですが、店主が「息子が幼稚園
の頃、大きくなったら何になりた
いかで、サービスマスターがしたい
と書いてたんです」。当時は「サー
ビスマスターになりたい」と書いて
も、幼稚園の先生も友だちも何

のことか分からなかったそうです
が、「うれしくてねえ、涙ぐんで
しまいました」と言っておられま
した。

成長した息子さんは「お父さん
の仕事をやらせてほしい」と伝え、
幼稚園時代の「将来の夢」を形に
しました。

決して綺麗な仕事でもなく時
間も不規則なのに、お父さんの背
中をずっと見てきて、自分の仕事
にしていくなのは凄いなと感じま
した。汗をかきながら、ひたすら

お客様のために仕事に精を出し
ている、働く姿が輝いていたので
しょう。お父さんを見続けていた
息子さんのまなざしが思い浮か
び、また目標になったお父さんも、
素晴らしいなと思いました。

仕事に良し悪しはありません。
今の仕事に誇りを持ち、謙虚にひ
たむきに打ち込む事が人の成長
につながり、周囲に良い影響を与
えるのでしょうか。

株式会社ダスキン社長

山村 輝治



写真・阿部高嗣「やる気もムクムク」

喜びの タネまき 新聞 no.533

読む人の
幸せを
心に願って
作る

遠くまで行ってみたい。知っているかぎりていちばん遠くへ。冒険のムシにそそのかされて出かけた真夏の一日の話をしよう。

「夏の冒険」

小さい頃から知らない場所へ行くのが好きだった。はじめはせいぜい家の周り、それから町内。小学生になると範囲は隣の境界線へと次第に広がった。

四年生の夏休み、ふと遠く離れた遊園地まで行ってみようと考えた。そこは家族で何度か遊びにいった花見の名所だった。ひとつ下の隣のケンちゃんに、

「行つてみようぜ」と声をかけた。小銭を握りしめ、行き先を確かめながら電車に乗り込む。終点の遊園地の駅に着くと、親に連れられてきたときは勝手が違うが、うる覚えながらも湖のある堰堤の下に出た。こうなると俄然気持ちも弾む。入道雲の湧く広い空の下、ぼくたちは大の字になった。

見上げれば眩しいほどの観覧車。だが、往復の電車賃しかないぼくには幻のようだった。午後になると夏の日差しはいつそう増して、麦わら帽子の下から汗がにじんできてる。するとアイスクリームの看板が目に入った。もはや抑えは利かない。気がつくとも帰りの電車賃でアイスをふたつ買っていた。



絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に隔はのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

冷たくてうまい。しかしそれをつかの間の休息にしかならなかった。もっと大きなアイスだったらいいのに。そんな空しさの中、公園の水道水を浴びながら汗を拭いた。歩いて帰ろう。線路沿いの道を行けば間違いなく帰れるはず。妙な自信でそう思った。はじめは元気で歩き出し、うまい具合に道が続いた。しかしそのうち道は線路から離れていき、とうとう勘を頼

りにいく羽目になった。ケンちゃんには不安そうな顔をしたが、ぼくはただ「大丈夫だよ」といって最後の力を振り絞った。何時間歩いたか。倒れ込みそうになる心細い夕暮れ。足がふらふらになりながら見覚えのある町内の端っこについた。「ばかもん!」父はぼくに一喝すると、ケンちゃんの手親に謝った。母はだまて肩を抱いた。



黒糖とヘルシーなお豆腐で

「きぬごし白玉だんご」

絹ごし豆腐で白玉を作り、黒糖ゼリーと合わせた、夏にピッタリのデザートです。お豆腐を入れることで、舌ざわりが柔らかく、軽めの仕上がりに。トッピングを豪華にすれば、ご自宅が甘味処に変身です。

◎作り方(4人分)

●黒糖ゼリー

鍋に黒砂糖80gを入れ、250mlの水を加えて火にかける。スプーンで混ぜながら黒砂糖がしっかり溶けたら火から下ろして粉ゼラチン5gを振り入れる。

氷水の入ったボウルを用意し、その中に鍋から器に移したゼラチン入り黒砂糖を入れ、あら熱をとる。冷蔵庫で約1時間冷やし固める。固まったゼリーはスプーンで混ぜて崩しておく。

●豆腐白玉(12個分)

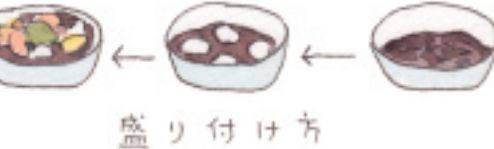
ボウルに白玉粉40gを入れ、絹ごし豆腐50gを加えて練り合わせる。目安は耳たぶほどの固さ。

練り上がったたら、棒状に伸ばして12等分にカットする。一つずつ丸く形を整え、中心を指の爪で少し押してへこませる。

鍋に湯を沸かし、丸めた白玉を入れて3〜4分茹で上げる。茹で上がると、白玉が浮き上がってきます。鍋に白玉を入れるときに

◎トッピング

器に崩した黒糖ゼリーと冷やした豆腐白玉を入れる。缶詰のカットフルーツや彩りのよい小粒の甘納豆、抹茶アイスクリームでアクセントをつけ、最後にもう一度、黒糖ゼリーを上からのせて完成。



盛り付け方

あんみつに似ていますが、黒糖ゼリーなので、グツと甘みが少なめです。



みてもらおう!

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



ほうれんそう配達中なの♪
新潟県三条市 高橋美和子



「さて〜、およぐぞ!」
秋田県湯沢市 伊藤一弥



「ぼくの顔より大きいな!」
広島県福山市 柿原和子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております!(詳細は7ページ)

岩手山の山裾。緑の林にある工房に、「てまる」陶磁器代表の大沢さんをお訪ねした。開口一番、「うれしいなあ、みんなに知ってもらえる！」グッドデザイン賞を受賞したことより何より、てまるの食器やスプーンの機能性や美しさについて、知らせたい言葉が止まらない。

「たとえば、離乳食を食べさせるお母さんが、片手で赤ちゃんの口まで持つて行けるように」このスプーンは曲がついて、それも右利きと左利きがある。もちろん、手が不自由な人にも使い易く、スプーンが口と接するところは木製と思えないほど薄く、金属みたいだ。等々。

自分の作る磁器のことになると、厚み、口当たり、持った時の軽さや置いた時にずれない重さまで、考え抜き、試作し、科学者が研究者のような職人さんである。

作陶30年。県の地場産業の活性化で介護食器を手掛けた。自分の技術を役立てたい。それに、以前からユニバーサル食器にも興味があっ

てまる

■ 岩手県滝沢村「陶来」の大沢和義さん

食事を楽しめるように
くれた工夫がいっぱいの器。
「ああ、おいしかった!」と
心が広がる。

「てまる」は岩手県の陶磁器や漆器の職人さん5人が推進するプロジェクト。幼児やお年寄り、介護を必要とする人のために、使い易いように自然にケアするユニバーサル食器。目に美しいデザインも素敵だ。



握力が弱くなくても持ちやすい湯飲み

形の特長

おかゆ碗やお皿のふちは
器の縁にかえしがある。

カレー皿と持ち手の太い
スプーン。食べやすい!



た。

「オーダーメイドのユニバーサル食器が理想。この人にとっては100%使い易いのがベスト」視力がない人から魚や干物が好きで食べたいので、箸がここで止まるというかえしのある角皿なんて注文を聞くと俄然はりきってしまう。

この「かえし」(下図)は、禅僧がさじで粥を食べていた「応量器」をヒントにしたという。器の縁を立ち上げ、内側に傾ける形だ。

「カレーやチャーハンがお米の一粒も残さず、最後まで食べられる」と好評。煮豆やひじきも最後まですくえる。食器が浅いほうが食べやすい人には浅く、手が震えるのでこぼれにくい器が欲しい人には深く作る。

「人生の楽しみの一つである食事が、食べにくい食器で、手助けしても散らかると、情けなくて母に申し訳ないと思ってしまう」と言った人もいる。食べやすさに加え、盛りつけた姿も美しい器でありたいと大沢さんは言う。

食事を楽しめるように。介護が必要な人も、そうでない人も、家族みんなが満足できるように。今は握力の弱い人も軽々と持てるマグカップを試作中。大沢さん56歳。

「人間、働ける時間って長くないから、よい物をつくりたいです」端然としてやさしい作風が、堂々としている。

おかゆ碗とスプーン



カレー皿



「磁器を焼く時間はガラス化させるために長いので丈夫です」と大沢さん。



高温の窯で時間をかけて焼いた器は澄んだキレイな音がするそうだ。



家族一緒にの食器で楽しい。あんかけの時も食べやすくて美味しい。



食器が前にずれないので食べやすく、子供が自分で全部食べられる。





蓄音機

広島市 反田弘子

『みかんの花が咲いている』思い出の道…』
かわいい歌声が流れる。まだ日本が貧しかった頃のこと。ある夏、近所の男の子の家で、初めて蓄音機を見た。あの中には、小さな女の子が入っているのかも。不思議でならなかった。

家の裏口で考えた。そうだ！あれを作ろう！母に紙の箱をもらい、コンパスで丸を作り、線をはき、ガリガリと溝をほった。細い釘に紐をピンとはり、レコードを回した。力を入れたり緩めたり。きつと声が出るぞ！ドキドキした。急に音がすると、びっくりするから、小屋に隠れて回した。手が痛くなるほど、強く押して回して、ふと気がつくとも母が来ていた。

「まあ！よう出来たね。夏休みの宿題に、学校へ持ってゆけばいいよ」のんびりした母の声に、我に返った。少し恥ずかしくもあり、なにか悲しくて泣きそう、下ばかり向いていた。

夕方、私は母の手にひかれて、男の子の家に行った。みんなで『みかんの花咲く丘』を歌って嬉しかった。母の優しい心が胸にしみた。

母は一昨年102歳で亡くなり、私ももう80歳。歌うことが大好きで、今もカラオケに行きます。娘は嫁いで音楽教師。やっぱり私の子ですね。

——ああ、なつかしい子供時代！



リモコン

鹿児島市 森山けい子

先日、4歳の孫と、映画館へアニメを観に行きました。初めての映画館。上映が始まると、孫は音の大きさにびっくり。

「うるさいけど、がまんできるよ」私の手をぎゅっと握り、30分間はどうか観ていましたが、急にキヨロキヨロしたかと思うと、

「ばあちゃん、リモコンどこにあるの？」これには私も周りも大爆笑。孫守りは大変だけど、元気をもらうことも、よくありますね！

——あはは、かわいい！



持ってあげる

愛媛県松山市 上窪田美鶴

その日は週2回のブルの日。帰りは買い物をして、プール道具と共に荷物はリュックに詰めました。左膝を悪くしたため、ノルディックウォーキング用のポールを両手に持ち、ヨイシヨ、ヨイシヨとゆっくり歩いていると後から小学4、5年生の女の子が追いかけてきました。

「リュック持たせてあげましょう」突然声をかけられびっくり。見ると、自分もランドセルを背負っています。「重いからいいよ」「大丈夫、持てます」と女の子は、ニコニコしてリュックを右肩にかっいで持ってくれました。

自宅までは5分ほどの距離でしたが、見知らぬおばあちゃんに、声をかけて手助けをする勇氣と愛情に頭が下がりました。あの優しい笑顔は忘れません。

——元気をもらったサプライズ！



トウモロコシ

岩手県花巻市 熊谷昌子

晴耕雨読の日々を送っている夫に、リュウマチの女房は、せつせと食卓に美味しい料理を出して、「うめくうめくなあ」と言ってもう。

トウモロコシの収穫時。先に失敬する不届き者の正体はタヌキ！「これでは、おっかーに食べさせられん！」と怒った夫は、何を思ったのか、夜間畑に聞こえるようにラジオをかけ始めました。翌日、タヌキの出没はゼロ。もちろんネットも無事でした。

毎年収穫されるトウモロコシは近所や親戚に送っても余る量です。それならば共存共栄。タヌキにもあげようと、ネットをはずしラジオも止めました。

「オレんちのきみ（トウモロコシ）おいしくべ！」夫は見えない来客、タヌキに独り言。

私は「どうぞ、沢山食べてお山にお帰り。なんと、タヌキはタヌキの勝手だもんね」

——一度食べたら忘れられない味。



博物館にて

仙台市 清水典子

町の小さな博物館で働いています。図書館に隣接して、町の出土品、生活文化財などを集めてありますが、観光客が立ち寄ることも稀で、図書館に入れなかった高校生が、よく博物館のテーブルにいます。最初は開放していなかったのですが、高校生の目的は受験勉強なので、時間を限り、休憩コーナーを開放しました。高校生たちはマナーが良く一人残らず熱心に自習しています。3月になると、高校生の人数は見る間に減っていき、新学期に入ると、姿を消します。夏休み。2人の女子大生が「あの頃はとも」と挨拶をしに訪ねてきてくれました。2人とも志望大学に通っているとのこと。良かったですね」と少しジーンときてしまいました。

——静かな机に流れた、確かな時間。



中国語会話

東京都清瀬市 末吉偕子

新宿で会議があった折、友人は目の不自由な方と一緒に参加していましたが、急な用事で退席することになり、友人に代わり、急ぎょ私が、その方を駅までお連れすることになりました。肩を貸して駅まで歩いてみると、「おいくつですか？」と聞かれました。照れも手伝い、中国語でお答えしました。すぐに、「〇〇歳ですね」と返事が返ってきたので、驚くと、「以前、中国語を習っていたので、すぐに分かりました」とのお答え。私も前に習っていたことをお話しして、それから勉強も兼ねて、二人で中国語で会話をしました。

偶然の出会いとはいえ、ささいな事で意気投合し、とても楽しいひと時となりました。

——会話はすんでうれしいですね。

いとこ三人仲良しの！



熊本県玉名市 志水久矩

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。
どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
電話 03(5909)6703
e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

☎ No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます
<http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html>

4～5ページの「てまる」の連絡先

〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字岩手山395-331
「陶来」大沢和義 電話&FAX:019-688-1502
ホームページ <http://temaru.jp>
e-mail:iwatesan-tourai-toujiki@y4.dion.ne.jp

燈々無尽

自分に勝つ
自分の中で、自分に勝とう。
自分の中の自分を認め、
ほんとうに自分を信じたときは、
高きはばたこう。
自分が失われたとき……、
広く歩こう。
静かな想いをこらそう。
——人の言葉を善意に信じ、
あらゆるものから善意を見だし、
それを育て、それを喜び、
決して「さげすみ」をしない、
大きな自分になりたい。

鈴木清一

愛の輪からのコラム

人によさしいグローバルな視点って？

アジアでも“コミュニケーションの可能性が広がる”テレビ電話



アジアの新興国でも最近、都市部の空港ターミナルやホテル、カフェなどでスマートフォンやタブレット端末の画面に向かって話しかける人の姿を見かけます。音声や文字で伝える電話やメールから一歩進み、互いの「いま」を視覚的に伝えるテレビ電話で、聴覚に障害のある人とも手話や身近な風景や物を見せ合ったり。コミュニケーションの楽しみ方や可能性が広がっています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 HP (<http://www.ainowa.jp/>)

愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。

なるほど! ダスキンの50年

「モップ」

ハガキに書いてご応募ください!



「ダスキン 愛情おてつだいギフト」を プレゼント!



抽選で
30
名様に

日常の家事全般をお手伝いするダスキン メリーメイド
「家事おてつだいサービス」を1時間ご利用いただけます。

※お受けできないサービスもございます。
※地域によりお伺いできないところがあります。
【賞品に関するお問い合わせ窓口】
0120-8000-33(受付時間 9:00~19:00)
日・祝日・夏期休暇・年末年始除く

下記の要領でご応募ください。

●ハガキに

- ①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢
 - ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名
 - ⑨この新聞内で好きなコーナー
 - ⑩ダスキンとの印象深い思い出
- をご記入の上、下記であて先までお送りください。

●応募専用のあて先

※郵便番号とあて先のみで届きます。

〒163-0265

住所は不要です。

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.533」プレゼント係

●締め切り 平成25年9月6日(金)当日消印有効

●当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成25年9月下旬お届け予定)

●応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

※ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報は、(株)ダスキンにおいてプレゼントの抽選や賞品の発送に利用させていただきます。ご記入いただいたコメントに関しては、弊社ホームページ「ダスキン50周年記念ページ」上に掲載させていただく場合がございます。掲載内容:コメント、都道府県、性別、年齢(但し、掲載させていただく際に、コメントの文意を変えない範囲で編集をする場合がございます)。個人情報に関するお問い合わせやご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」プレゼント係(TEL:03-5909-6703)までご連絡ください。

お客様の声はインターネットにて承っております。

ダスキンお客様の声

検索

www.duskin.jp/voice

いつの時代も
ホコリに合わせて
モップは進化して
きました!



ダスキンの家庭用モップは1965年に誕生。当時の家に多かった黒い砂ボコリが目立つ綿製の黄色のモップでした。住環境が変わり白い綿ボコリが増えた1990年代にはナイロン製の紫色のモップに。その後、ダニや花粉などのアレル物質抑制機能が付きしました。2011年には機能を高めたレッドとグレーの「スタイルフロア ララ」が登場しました。

あなたの声 が原点です。

私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキンが大切にしたいのは、あなたの声——。

ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 ダスキン

発行: 広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集: 「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報の取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品の届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp